



2025年 11月7日 金曜日  
(令和7年)

# 知・技の創造

ものづくり大学発

▷118◁

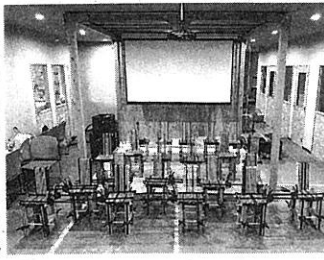
参加し、役場職員や地域おこし協力隊、そして私たち大学の不足で急な調整が必要になしげな笑顔は忘れられませ生が協力して進めました。完成したイスの一部は「みなのか迷ったりする場面もありました」に常設し、残りは参加した者が自宅に持ち帰る仕組みとしました。施設に置いたものを重ねていきました。完成し

う声が多く寄せられました。こつたワークシヨップは、子どもたちにもものづくりの楽しさを伝えることが主な目的でした。しかし、振り返ると最も大きな学びを得たのは、実は運営側の学生だったのではないかと感じています。部材の準備や加工方法の検討、当日の進行計画や資料作り、さらに地域の方々との調整など、授業では経験できない実践的な課題に向き合いました。現場での予想外のトラブルにも対応し、参加者に

大竹 由夏 建設学科講師

## ブルーチェアと皆野町

みなのかブルーチェアワークシヨップの様子



おたけ・ゆか ものづくり大学講師。筑波大学博士後期課程修了。博士(デザイン学)。一級建築士。筑波大学博士特別研究員を経て現職。

安心して取り組んでもらえるよう工夫を凝らす過程は、ものづくりの技術以上に貴重な学びを与えてくれました。

埼玉県秩父盆地に位置する皆野町では、森林資源の循環と地域交流をテーマにした取り組みが進められています。その拠点となるのが皆野駅前にある移住相談センター「みなのか」です。移住希望者と地域住民が気軽に立ち寄れる場所として改修されましたが、よの親しみやすく魅力ある空間とすることが課題でした。私たちはその一環として、

町内の製材工場から提供された端材を活用し、子どもたちを対象に「イスづくりワークシヨップ」を企画しました。当日は子どもたちが思い思いの色を選び、真剣な表情で



小さな家具が、地域への愛着や次世代への継承のきっかけとなることを願っています。